

# 2015 年度 研究所事業報告書

研究所名	人文科学研究所
研究所長名	加國尚志

## I. 研究成果の概要

本欄には、研究所・センターの実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、研究所総合計画(5 ヵ年)および 2015 年度重点プロジェクト申請調書に記載した内容に照らし、項目立てなどをおこなってできるだけわかりやすく記述してください。

### 【研究会活動の概要】

人文科学研究所は、1. 史料の収集・蓄積を重視した日本近代社会・思想史研究、2. 現在社会と人間を解読するために哲学、倫理学、宗教学、社会学分野の研究者の協業による斬新な視角の模索、3. グローバル化の問題点の検証とそれへの実践的な対応の模索の 3 点を共同研究の柱に掲げている。

2015 年度は、その目標のもとに 6 つの研究所重点プロジェクト研究、①「戦後民主主義の理念と制度設計」(代表:小関素明)、②「暴力からの人間存在の回復」(代表:加國尚志)、③「間文化性における知の混淆と異化」(代表:谷徹)、④「グローバル化とアジアの観光」(代表 遠藤英樹)、⑤「グローバル化と公共性」(代表:堀雅晴)、⑥「日本都市における空間編成の歴史地理」を設置し、研究活動を行った。

また、8 つの研究助成プログラムを実施した。

### 【重点プロジェクトの研究活動の概要】

①「戦後民主主義の理念と制度設計」では、国立国会図書館憲政資料室や国立公文書館に所蔵されている資料のなかほどのような史料が含まれているのかを見極める予備調査を行うとともに、若手研究者の成果発信に力をいれた。特に研究会や学会での発表、及び人文科学研究所紀要への論文掲載を行った。

②「暴力による人間存在の回復」では、若手育成と社会的成果発信に力を入れた。若手研究者によるワークショップを開催し、その成果は 2016 年度の本研究所紀要に掲載される予定である。また若手研究者の海外での研究活動を支援した。さらに客員研究員として所属していた本学博士号取得者の研究者が中国の福州大学に研究・教育職で就職し、若手研究者(博士号取得者)のキャリア・アップに成功した。また講演会と演奏会を一般市民公開で開催し、研究内容の社会的発信を行うことができた。

③「間文化性における知の混淆と異化」では、国際的な研究交流を促進した。2014 年に急逝したラスロ・テンゲイ教授(ドイツ・ヴッパータール大学)を追悼し、直弟子インガ・レーマー氏による講演会を開催した。またマティアス・オーベルト氏(台湾・中山大学)による講演会、さらには、「フッサール研究会」と連携して「間文化現象学シンポジウム」を 2016 年 3 月に開催し、研究発表、研究討議をつうじて、成果を共有した。また、公益財団法人・日独文化研究所と連携して、アナ・ホナッカー氏(ドイツ・ハノーファー哲学研究所)の講演会を 2015 年 10 月に開催した。さらに、ダリン・テネフ氏(ブルガリア・ソフィア大学)の講演会を 2015 年 12 月に開催した。さらに、「立命館大学人文科学研究所紀要」に、間文化現象学特集を組んで、これまでの研究成果の一部を公刊した。このように国際的な共同研究と研究交流、成果発信を行うことができた。

④「グローバル化とアジアの観光」では「ダークツーリズム研究の新地平——ダークネスを射つ」と題して公開シンポジウムを開催した。「ダークツーリズム研究の現在と今後の課題」というテーマで、イギリスのセントラル・ランカシャー大学からリチャード・シャプリー氏を招聘し、公開セミナーを実施した。研究会の若手研究者をはじめとする研究会メンバーはもちろん、一般からも参加者をえて、シャプリー氏を中心に有意義かつ刺激的な研究交流を行うことができた。

さらにダークツーリズム研究と並行して、研究会メンバーが各自取り組んでいる批判的観光研究の成果についても研究会を開催し、活発な議論がなされた。

⑤「グローバル化と公共性」では、研究成果を広く公開するために叢書や紀要の刊行に取り組んだ。8 年間の国際シンポの研究成果を 2016 年に刊行するために、中国と韓国の編集責任者と連携し出版内容の具体化を進めた。併せて、日本側の編集会議を開催した。日本側の執筆者の原稿を元にした研究会を平行して行い、そのために必要な研究資料の収集も進めた。

また、2014 年 3 月に開催した国際シンポジウムの報告者の英文論文を、英文紀要の小特集として刊行した。ランカスター大学(英)、中央大学(韓国)、暨南大学(中国)の参加者を得て、「国際シンポジウム:新自由主義的グローバル化と現代東アジアの社会経済変容」(3月14・15日)を立命館大学創思館カンファレンスルームにて開催した。

⑥「日本都市における空間編成の歴史地理」では、研究メンバーの分野、そして各々が取り組んできた時代も異なるため、

初年度は、都市の空間史にまつわる経験的研究ならびに理論一般を踏まえ、各々の視角を切り結びながら、共通の土台を構築することを大きな目標とした。この目標を達成すべく、4回の研究会(うち1回は巡検)を実施した。

**【助成プログラムの研究内容】**

新たな研究分野を開く萌芽的な研究に関して援助をするものとして次の8つの研究助成プログラムを実施した。

- ①「グローバル・ガバナンスにおける市民社会の役割」、②「社会科学の哲学的基礎の研究―批判的实在論の可能性―」、③「高度メディア社会における映像に関与する身体様態に関する理論的研究」、④「学際知に基づく制度論的マイクロ・マクロ・ループ論の体系化:アクターの多面性とその活動空間を巡る理論と実証」、⑤「日本の最高裁判所―最高裁判決と制度的・人的構成の関係」、⑥「世界と共に感じる能力―感覚・情動・物質の人類学的研究」、⑦「中川家文書の総合的研究」、⑧「社会統合の変遷に関する国際比較研究―ナショナル・アイデンティティの再編成に注目して―」

**【若手研究者育成の概要】**

研究所重点プログラムに関しては、人数の差はあるが、すべての研究会が若手研究者を構成メンバーに加え、資料収集活動の援助・指導、報告や成果執筆・翻訳の機会の提供や博士論文・研究資金の分与を行い、学外の若手研究者とのネットワーク形成を支援するなど、その育成に力を入れている。

また、若手研究者に研究会の企画を委ねるなど、研究者として自立するに際して必要な経験の機会を与えたプロジェクトも存在する。これら研究会所属の若手研究者のなかから他大学への就任や、学術振興会特別研究員に採用される若手研究者が現れたことは、これら研究会の若手研究者支援が実をあげつつある証左と言えよう。

助成プログラムにおいても、若手研究者に学内外での口頭報告や、学術雑誌への成果執筆の機会を提供し、効果的な若手研究者育成に功を奏しつつある研究会も存在する。

**II. 拠点構成員の一覧**

本欄には、2016年3月31日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員協力研究員等の構成員を全て記載してください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

- ①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③学振特別研究員(PD・RPD)、④博士後期課程院生・一貫制博士課程3回生以上に在籍する院生

役割	氏名	所属	職位
研究所長・センター長	加國 尚志	文学部	教授
運営委員	小関 素明	文学部	教授
	谷 徹	文学部	教授
	遠藤 英樹	文学部	教授
	藤巻 正己	文学部	教授
	加藤 政洋	文学部	教授
	堀 雅晴	法学部	教授
	松下 洸	国際関係学部	特任教授
	足立 研幾	国際関係学部	教授
	川村 仁子	国際関係学部	准教授
	筒井 淳也	産業社会学部	教授
学内教員 (専任教員、研究系教員等)	中島 茂樹	法学部	特任教授
	鳶野 克己	文学部	教授
	ウェルズ 恵子	文学部	教授
	岡本 雅史	文学部	教授
	萩原 正樹	文学部	教授
	北尾 宏之	文学部	教授
	伊勢 俊彦	文学部	教授

学内教員 (専任教員、研究系教員等)		林 芳紀	文学部	准教授
		亀井 大輔	文学部	准教授
		石崎 祥之	経営学部	教授
		羽谷 沙織	国際教育推進機構	准教授
		駒見 一善	国際教育推進機構	准教授
		De Antoni Andrea	国際関係学部	准教授
		井澤 友美	国際関係学部	助教
		麻生 将	文学部	特任助教
		韓 準祐	文学部	特任助教
		轟 博志	APU アジア太平洋学部	教授
		四本 幸夫	APU アジア太平洋学部	准教授
		文 京洙	国際関係学部	教授
		田中 宏	経済学部	教授
		小澤 亘	産業社社会学部	教授
		山下 範久	国際関係学部	教授
		玉置 えみ	産業社社会学部	助教
		田中 聡	文学部	教授
	三枝 暁子	文学部	准教授	
学内の若手研究者	専門研究員・研究員	林 尚之	衣笠総合研究機構	専門研究員
		池田 裕輔	衣笠総合研究機構	専門研究員
		櫻澤 誠	衣笠総合研究機構	専門研究員
	補助研究員・リサーチアシスタント			
	学振特別研究員 (PD・RPD)	山口 一樹	文学研究科	学振特別研究員 DC
		寺澤(奈良) ゆう	文学研究科	学振特別研究員 DC
		織田 康孝	文学研究科	学振特別研究員 DC
		真杉 侑里	文学研究科	博士後期課程 5 回生
		猪原 透	文学研究科	博士後期課程 5 回生
		久保 健至	文学研究科	博士後期課程 1 回生
		斉藤 仁志	文学研究科	博士後期課程 1 回生
		横田 祐美子	文学研究科	博士後期課程 3 回生
		酒井 麻依子	文学研究科	博士後期課程 1 回生
	松田 智裕	文学研究科	博士後期課程 3 回生	
	小田切 建太郎	文学研究科	博士後期課程 2 回生	
	谷崎 友紀	文学研究科	博士後期課程 1 回生	
	円城 由美子	国際関係研究科	博士後期課程 3 回生	
	森田 耕平	文学研究科	博士後期課程 2 回生	
その他の学内者 (非常勤講師・研究生・研修生等・ 博士前期課程院生等)	梶居 佳広	経済学部	非常勤講師 (人文研客員研究員)	
	颯原 善徳	文学部	非常勤講師 (人文研客員研究員)	

その他の学内者 (非常勤講師・研究生・研修生等・ 博士前期課程院生等)	神田 大輔	文学部	非常勤講師
	佐藤 勇一	文学部	非常勤講師
	青柳 雅文	文学部	非常勤講師
	小林 琢自	文学部	非常勤講師
	田邊 正俊	文学部	非常勤講師 (人文研客員研究員)
	中谷 義和	法学部	非常勤講師 (人文研上席研究員)
	西口 清勝	経済学部	非常勤講師 (人文研客員研究員)
	柴田 義雄	政策科学部	非常勤講師 (人文研客員研究員)
	風間 健	文学研究科	博士前期課程 2 回生
	前田 一馬	文学研究科	博士前期課程 2 回生
客員協力研究員	赤澤 史朗	人文科学研究所	上席研究員
	吉田 武弘	京都大学文学部	学振特別研究員 PD (人文研客員研究員)
	佐藤 太久磨	漢陽大学校国際文化大学	助教授 (人文研客員研究員)
	黒岡 佳証	福州大学	教員 (人文研客員研究員)
その他の学外者 (他大学教員・若手研究者等)	山本 勇次	大阪国際大学	名誉教授
	村瀬 智	大手前大学	教授
	瀬川 真平	大阪学院大学	教授
	池本 幸生	東京大学	教授
	橋本 和也	京都文教大学	教授
	神田 孝治	和歌山大学	教授
	石井 香世子	東洋英和女学院大学	准教授
	古村 学	宇都宮大学	准教授
	大野 哲也	桐蔭横浜大学	准教授
	峯俊 智穂	追手門学院大学	准教授
	薬師寺 浩之	奈良県立大学	専任講師
	本岡 拓哉	同志社大学人文科学研究所	助教
	村上 しほり	神戸大学大学院 人間発達環境学研究科	研究員
研究所・センター構成員 計 81 名 (うち学内の若手研究者 計 17 名)			

### Ⅲ. 研究業績

本欄には、「Ⅱ. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。(2016年3月31日時点)

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	ウェルズ恵子	アメリカを歌で知る	単著	2016年3月	祥伝社新書		275p
2	遠藤英樹	空間とメディア—場所の記憶・移動・リアリティ	共編著	2015年6月	ナカニシヤ出版	松本健太郎	pp.3-26 pp.215-237
3	遠藤英樹	人文・社会科学における「観光論的転回」	単著	2015年7月	『観光の地理学』文理閣	立命館大学地理学教室	pp.12-31

4	藤巻正己	遺産観光ブームに沸くマラッカのツーリズムスケーブ瞥見	単著	2015年7月	『観光の地理学』文理閣	立命館大学地理学教室	pp.304-331
5	神田孝治	観光空間を文化論的に理解する	単著	2015年4月	『人文地理学への招待』ミネルヴァ書房	竹中克行編	pp.143-159
6	神田孝治	想像／創造される風景—近代日本における国立公園風景の均質化と異種混濁化—	単著	2015年6月	『空間とメディア—場所の記憶・移動・リアリティ』ナカニシヤ出版	遠藤英樹・松本健太郎編著	pp.119-133
7	神田孝治	『ひぐらしのなく頃に』—多様な関係性の中で形づくられる観光の空間	単著	2015年8月	『コンテンツツーリズム研究—情報社会の観光行動と地域振興』福村出版	岡本健編	pp.130-131
8	神田孝治	南紀熊野体験博と熊野の表象	単著	2015年10月	『万国博覧会と人間の歴史』思文閣出版	佐野真由子編著	pp.321-348
9	薬師寺浩之	海外孤児院ボランティアツアー参加者の経験と開発途上国に対する印象に関する考察	単著	2015年6月	『観光の地理学』文理閣	立命館大学地理学教室	pp.281-303
10	麻生 将	現代日本におけるキリスト教関連施設の分布状況と観光地化の可能性に関する試論	単著	2015年6月	『観光の地理学』文理閣	立命館大学地理学教室	pp.259-280
11	古村 学	離島エコツーリズムの社会学—隠岐・西表・小笠原・南大東の日常生活から	単著	2015年6月	吉田書店		274p
12	石井香世子	Marriage Migration in Asia: Growing Multi-marginalized Diaspora	単編著	2016年2月	Kyoto University Press / National University of Singapore Press		
13	文 京洙	『増補・なぜ書きつけてきたか、なぜ沈黙してきたか： 済州島四・三事件の記憶と文学』	編著	2015年4月	平凡社	金石範・金時鐘著	
14	文 京洙	『新・韓国現代史』	単著	2015年12月	岩波書店		
15	足立研幾	『プレリユード国際関係学』、第一章「グローバル化時代の国際秩序構築を目指して」	共著	2016年3月	東信堂	板木雅彦、本名純、山下範久編	pp.3-18
16	足立研幾	『平和と安全保障を考える辞典』	編著	2015年12月	法律文化社	編集委員	
17	足立研幾	『軍縮辞典』	共著	2015年9月	信山社	項目執筆	
18	玉置えみ	「移民のホスト社会への包摂と母国とのつながり：アジア系アメリカ移民における海外送金に注目して」 『労働社会の変容と格差・排除—平等と包摂をめざして』	共著	2015年	ミネルヴァ書房	櫻井純理・江口友朗・吉田誠編	pp.167-182.
19	玉置えみ	「移民適応とグローバリゼーション—浜松市におけるブラジル人住民の社会適応と母国とのつながり」 『ポスト工業社会における東アジアの課題』	共著	2016年	ミネルヴァ書房	筒井淳也・シングワシオン・柴田悠編	pp.228-248.
20	円城由美子	「中東地域の女性と難民—紛争による周縁化の現実—」 『中東の新たな秩序』	共著	2016年	ミネルヴァ書房	松尾・岡野・吉川編	
21	櫻澤 誠	『沖縄現代史 米国統治、本土復帰から「オール沖縄」まで』	単著	2015年10月	『中公新書』		384頁
22	三枝暁子	『京都の歴史を歩く』	共著	2015年10月	『岩波新書』	高木博志・小林丈広	

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	林 尚之	戦時国体論のなかの憲法制定権力と改憲思想	単著	2015年7月	立命館大学人文学会, 立命館文學(643)		pp.1-20	有
2	山口一樹	近現代史部会 宇垣一成擁立運動と陸軍	単著	2015年12月	日本史研究会, 日本史研究 640		pp.86-88	有
3	小田康孝	日本軍政下のジャワにおける歌—グラフ雑誌『ジャワ・パル Djawa Baroe』を素材に—	共著	2016年3月	立命館大学人文科学研究所紀要	丸山 彩	pp.25-48	有
4	穎原善徳	大隈条約改正反対論における憲法典至上主義	単著	2016年3月	立命館大学人文科学研究所紀要		pp.49-86	有
5	吉田武弘	「議会の時代」の胎動—1900年体制成立期における議会観の転回—	単著	2016年3月	立命館大学人文科学研究所紀要		pp.87-129	有
6	ウェルズ恵子	Variations and Interpretations of the Japanese Religious Folk Ballad, Sansho-Dayu, or “Princess Anjyu and Prince Zushio” (1): The Narrative Tradition Kept by Visually Impaired Minstrels	単著	2015年9月	Journal of Ethnography and Folklore(New Series 巻 1-2号)		pp.5-27	有
7	ウェルズ恵子	アメリカ奴隷制時代の歌を研究すること：黒人歌の創造性を見きわめるために	単著	2016年3月	黒人研究(85号)		pp.35-44	有
8	加國尚志	自然と言語—木田元の哲学	単著	2015年7月	中央評論 67(2)		pp.71-80	無
9	亀井大輔	初期デリダとハイデガー——デリダのハイデガー講義(1964-65)をめぐる——	共著	2015年11月	現象学年報、日本現象学会、31号	加藤恵介、長坂真澄	pp.65-71	無
10	Daisuke Kamei	La democratie et la question de l'autre chez Derrida et Ranciere	単著	2015年6月	人文学報、首都大学東京、511号		pp.21-30	無
11	佐藤勇一	視角の狂気と眼差しの帝国——メルロ＝ポンティとジェイにおけるケプラーとデカルト	単著	2016年3月	立命館大学人文科学研究所紀要、108号		pp.65-91	有
12	横田祐美子	ジョルジュ・パタイユの盲目的視覚——マーティン・ジェイの視覚論を起点として——	単著	2016年3月	立命館大学人文科学研究所紀要、108号		pp.3-20	有
13	松田智裕	眼はなにを映し出すのか——デリダにおける視覚の限界性と生の記述をめぐる——	単著	2016年3月	立命館大学人文科学研究所紀要、108号		pp.21-38	有
14	田邊正俊	ニーチェと視覚をめぐる—考察——デカルト的遠近法主義と	単著	2016年3月	立命館大学人文科学研究所紀要、108号		pp.39-64	有

		ニーチェのペルス パクティヴィスムス を手がかりとして——						
15	黒岡佳柁	ハイデガーの眼と耳 ——観ること、聴く こと、思索すること ——	単著	2016年3月	立命館大学人文科学研究 所紀要, 108号		pp.93-116	有
16	青柳雅文	アドルノとライル— —イギリス滞在期間 におけるアドルノの 現象学研究と分析哲 学との接点——	単著	2016年3月	立命館大学人文科学研 究所紀要, 107号		pp.131-156	有
17	谷 徹	文明・文化と「三」	単著	2015年4月	文明と哲学、公益財団 法人日独文化研究所、 7号		pp.39-64	無
18	谷 徹	文明・文化と「四」	単著	2016年3月	文明と哲学、公益財団 法人日独文化研究所、 8号		pp.23-38	無
19	小田切建太郎	ヘルムート・フェッ ター『ハイデガーの 見取り図』書評	単著	2016年3月	文明と哲学、公益財団 法人日独文化研究所、 8号		pp.253-266	無
20	谷 徹	「あわい」と現象学	単著	2015年8月	情況、情況出版、第四 期第四巻第6号		pp.93-107	無
21	Toru Tani	Japanese Phenomenology	単著	2015年9月	<i>Oxford Handbook Online</i> , Oxford University Press			無
22	小林琢自	国家の現実性と意味 —尾高朝雄の現象学 的存在論—	単著	2016年3月	立命館大学人文科学研 究所紀要, 108号		pp.135-161	有
23	小林琢自	キム・テヒ「生活世界 的時間の危機—エト ムント・フッサールの 現象学的分析から— 」翻訳	単著	2016年3月	立命館大学人文科学研 究所紀要, 108号		pp.163-191	有
24	小田切建太郎	ジョセフ.S.オレアリ ー「エルアイクニス において存在はどう なってしまうのか? 」翻訳	単著	2016年3月	立命館大学人文科学研 究所紀要, 107号		pp.157-176	有
25	小田切建太郎	〈根源の場所〉と〈か まど〉——M.ハイデ ガーのヘルダーリン 解釈をめぐって	単著	2016年3月	立命館哲学、立命館大 学哲学会、27集		pp.95-125	有
26	小田切建太郎	イブノスの傍らで— —ハイデガーにおけ るヘラクレイトスの 〈かまど〉の意味に ついて——	単著	2016年6月	倫理学研究、関西倫理 学会、46号		pp.86-96	有
27	Yusuke IKEDA	Das Konzept der Phaenomenologie der transzendentalen Medialitaet bei Yoshihiro Nitta. Faktizitaet und ihre transzendental- mediale Funktion	単著	2015年5月	<i>Interpretationes</i> , Charles University Prague. No. 6.		pp.99-111	有
28	Yusuke IKEDA	Eugen Finks Kant- Interpretation	単著	2016年1月	<i>Horizon</i> . Saint-Petersburg State University, 4-2.		pp.154-185	有
29	横田祐美子	パトリック・ロレッ ド「人間の倫理は供 儀的か：倫理の脱構 築をめぐるデリダと レヴィナスの論争」 翻訳	単著	2016年3月	『人文学報 フランス文 学』、首都大学東京人 文科学研究科、512- 515号		pp.141-165	無
30	黒岡佳柁	共に住むこととして のエートス——ハイ デガーにおける他者	単著	2015年11 月	立命館文学, 644号		pp. 1~12	有

		と空間性の問題への 試論——						
31	黒岡佳柱	「確実性」を巡る対 決——前期ハイデガ ーのデカルト批判	単著	2016年4月	哲学、67号		pp.216-230	有
32	遠藤英樹	ダークツーリズム— 「ダークネス」への まなざし	単著	2015年6月	古今書院、月刊地理、60・6		pp.38-47	無
33	遠藤英樹	グローバル時代の新 たな地域研究—シン ガポールを事例とし た考察	単著	2016年3月	立命館大学人文学会、立命館 文学、645		pp.11-24	無
34	遠藤英樹	ダークツーリズム試 論	単著	2016年3月	立命館大学人文科学研究所、 立命館大学人文科学研究所紀 要、110		pp.3-22	無
35	藤巻正己	世界遺産都市ジョー ジタウンの変容する ツーリズムスケープ —歴史遺産地区の観 光化をめぐるせめぎ あい	単著	2016年3月	立命館大学人文学会、立命館 文学、645		pp.137-163	無
36	橋本和也	スポーツ観光研究の 理論的展望—「パフ ォーマー・観光者」へ の視点	単著	2016年3月	『観光学評論』4-1		pp.3-17	有
37	加藤政洋	焼け跡に生まれた赤 線の真実	単著	2015年8月	軍都東京 占領下の東京 (洋泉 社MOOK)		pp.92-97	無
38	加藤政洋	〈会館〉という迷宮— 京都の集合建築に学 ぶ都市の奥ゆき	単著	2016年3月	CEL(112号)		pp.30-35	無
39	加藤政洋	戦後那覇の都市化と 地名の生成に関する 地理学的研究	共著	2016年3月	公益財団法人国土地理協会 『学術研究助成報告集 第2 章』	河角龍典・櫻澤誠	pp.223-239	無
40	加藤政洋	戦後京都における 「歓楽街」成立の地 理的基盤—花街の変 容に着目して	単著	2016年3月	立命館大学人文学会、立命館 文学、645		pp.45-63	有
41	神田孝治	与論島への観光と 『たそがれる』	単著	2015年6月	古今書院、月刊地理、60・6		pp.12-19	無
42	大野哲也	冒険人類学序説	単著	2015年10 月	桐蔭横浜大学、桐蔭論叢、第32 号		pp.53-70	無
43	韓 準祐	観光まちづくりの現 状と阻害要因—行政 担当者を対象にした アンケート調査結果 の報告	単著	2016年1月	Ritsumeikan Journal of Asia Pacific Studies、34号		pp.191-206	無
44	井澤友美	世界遺産と観光：イ ンドネシア・バリ州 の事例から	単著	2016年3月	立命館大学人文科学研究所、 立命館大学人文科学研究所紀 要、110		pp.110-139	無
45	文 京洙	「在日朝鮮人からみる 日韓関係——〈国民 を超えて〉磯崎典世・ 李鍾久編『日韓関係 史1965-2015』		2015年10 月	東京大学出版会		pp.61-84	
46	Ozawa Wataru	Volunteer Sector facing the Super Aged Society in Japan		2016年3月	Journal of Ritsumeikan Social Sciences and Humanities 7			無
47	小澤 亘	外国にルーツを持つ 児童生徒の学習権保 障とデジタル教科書 政策		2015年12 月	立命館人間科学研究 33			有
48	足立研幾	「セキュリティガヴァナ ンス論の新地平」		2016年3月	立命館大学人文科学研究所、 立命館大学人文科学研究所紀 要、109号		pp.1-6	無



49	足立研幾	「毒禁止規範から化学兵器禁止規範へー『変容し続ける規範』という分析視角による事例研究」		2015年12月	『グローバル・ガバナンス』第2号		pp.1-14	
50	玉置えみ	"Pregnancy Intention and Contraceptive Use among Married and Unmarried Women in Japan."		2016年	Japanese Journal of Health and Human Ecology.82(3),	Shoko Konishi and Emi Tamaki	pp.110-124	
51	円城由美子	「フセイン政権後に見られる女性の人身取引—紛争の契機と歴史・文化的要因を視野に入れて—」		2015年	『アジア・アフリカ研究』第55巻 第3号			
52	中谷義和	'An Introductory Remark Concerning the Genealogy of Neoliberalism'		June 2015	Ritsumeikan Law Review, vol.32		pp.55-59	
53	西口清勝	「ASEAN共同体の成立と域内経済協力(その1)」		2015年2月	『立命館経済学』第64巻第4号		pp.154-160	
54	西口清勝	「ASEAN共同体の成立と域内経済協力(その2)」		2016年3月	『立命館経済学』第64巻第6号		pp.44-60	
55	西口清勝	「ASEAN経済共同体の発足」		2016年3月	『経済』第246号		pp.91-104	
56	加藤政洋	焼け跡に生まれた赤線の真実	単著	2015年8月	軍都東京 占領下の東京(洋泉社MOOK)		pp.92-97	無
57	加藤政洋	〈会館〉という迷宮—京都の集合建築に学ぶ都市の奥ゆき—	単著	2016年3月	CEL(112号)		pp.30-35	無
58	加藤政洋・櫻澤 誠	戦後那覇の都市化と地名の生成に関する地理学的研究	共著	2016年3月	公益財団法人国土地理協会『学術研究助成報告集 第2章』	河角龍典	pp.223-239	無
59	加藤政洋	戦後京都における「歓楽街」成立の地理的基盤—花街の変容に着目して—	単著	2016年3月	立命館文学(645号)		pp.45-63	無
60	櫻澤 誠	沖縄の復帰運動と日本国憲法：沖縄違憲訴訟を中心に	単著	2015年12月	歴史学研究 939号		pp.1-12	有
61	櫻澤 誠	米軍統治期の沖縄保守勢力と「島ぐるみ」：「オール沖縄」に繋がる水脈	単著	2016年2月	現代思想 44-2		pp.114-119	無

3. 研究発表等					
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	Toru Tani	Awai - the Japanese concept of betweenness	2015年4月	Phenomenology and Oriental Philosophy, 中山大学、広州、中国	
2	佐藤勇一	ミシェル・アンリ哲学における宗教思想としてのカフカ	2015年6月	ミシェル・アンリ哲学会、第7回大会、学習院大学	
3	青柳雅文	最初期ホルクハイマーの思想形成—コルネリウス、レーニンとの関係を手がかりとして	2015年5月	日本哲学会 第74回大会、上智大学	
4	Yusuke IKEDA	Contengence et necessite du monde selon Husserl et Fink - Perspectives phenomenologiques	2015年4月	Phenomenologie a l'oeuvre: Allemagne-France-Japon 関西学院大学	

5	Yusuke IKEDA	La nouvelle phenomenologie française? Le phenomene dans son evenementialite selon Neue Phaenomenologie in Frankreich (1) et (2)	2015年9月	Special Lecture 国立研究大学高等経済学院 モスクワ、ロシア	
6	Yusuke IKEDA	Kant-Interpretation bei Eugen Fink	2015年9月	Classical German Idealism and Phenomenology 国立サンクト・ペテルブルク大学、サンクト・ペテルブルク、ロシア	
7	Yusuke IKEDA	The Origin of Sensibility and Understanding in its Temporal Dimension - With special regard to Husserl and Fink.	2015年9月	Special Lecture 国立研究大学高等経済学院 モスクワ、ロシア	
8	池田裕輔	フイックの世界根源の現象学	2015年11月	日本現象学会 第37回研究大会 同志社大学	
9	池田裕輔	ラスロ・テンゲイと現象学的形而上学 (ワークショップ「現象学の新たな展開—現象学的形而上学 ラスロ・テンゲイ遺作『世界と無限』をめぐって」での提題)	2015年11月	日本現象学会 第37回研究大会 同志社大学	
10	Yusuke IKEDA	La phenomenologie transcendante et le phenomene dans son evenementialite – reflexion preliminaire	2015年11月	Phenomenology of “elsewhere” プラハ・カレル大学 チェコ共和国 (明治大学との共催)	
11	Yusuke IKEDA	L'horizon en tant que metaphore philosophique – Reflexion phenomenologique autour des concepts d'horizon et monde chez Husserl	2016年3月	Seminaire “Mesologiques” 社会科学高等研究院、パリ、フランス	
12	遠藤英樹	ポピュラーカルチャーに誘発される観光、観光に誘発されるポピュラーカルチャー	2015年11月	2015年度中日人文地理与観光研究所国際セミナー、上海師範大学	
13	遠藤英樹	Interconnection between Tourism and Popular Culture	2016年2月	The International Seminar on Tourism in Asia: Economic Development and Socio-cultural Change、チェンマイ大学	
14	橋本和也	「大学における観光人材育成と理論構築」について	2015年7月	観光学術学会第4回大会、阪南大学	
15	橋本和也	「スポーツ観光研究」の提案—「パフォーマー・観光者」の視点から	2016年3月	スポーツ人類学会第17回研究大会、立命館大学朱雀キャンパス	
16	神田孝治	Community Engagement as a Socially and Environmentally Just Tourism Education : Facilitating student initiatives in sustainable community-based tourism development	2015年5月	21th APTA Conference(Kuala Lumpur, Malaysia)	Kumi Kato, Yumiko Horita, Simon Wearne, Yurika Fujita, Maki Kondo
17	神田孝治	コミュニティ・ベースド・ツーリズムと大学における観光教育—フィリピン・ボホール州での学生による実践の検討	2015年7月	観光学術学会大会第4回大会、阪南大学	加藤久美, サイモン・ワーン, 藤田友里佳, 近藤真紀
18	神田孝治	Homogeneity and Hybridity of National Park Landscapes: A Case	2015年10月	The Third Conference of East Asian Environmental History、(Kagawa University)	

		Study of National Parks in Taiwan under the Japanese Colonial Period			
19	神田孝治	和歌山大学観光学部における学生教育とジェネリックスキル	2015年10月	日本産業教育学会大会、和歌山大学	
20	神田孝治	沖縄本島における死にまつわる場所を対象とした観光の社会的生産とその変容	2015年11月	人文地理学会大会、大阪大学	
21	大野哲也	現代日本社会における「冒険」の人類学的考察—「危険」の商品化と「冒険」の大衆化	2015年5月	日本文化人類学会第49回大会、大阪国際交流センター	
22	大野哲也	冒険と新自由主義—「犠牲者」に着目して	2015年9月	日本社会学会第88回大会、早稲田大学	
23	韓 準祐	観光まちづくりの現状と阻害要因に関する報告	2015年7月	観光学術学会第4回大会、阪南大学	四本幸夫、畠田展行
24	韓 準祐	行政側が捉える観光まちづくりの自己評価と阻害要因	2015年11月	日本観光研究学会第30回全国大会	四本幸夫、畠田展行
25	韓 準祐	由布院の事例からみる観光まちづくり研究の再検討—擁護論と批判論を越えて	2015年6月	グローバル化とアジアの観光研究会、立命館大学衣笠キャンパス	
26	麻生 将	立地係数を用いた現代日本のキリスト教関連施設の観光地化の可能性に関する研究	2015年9月	日本地理学会秋季学術大会	
27	麻生 将	近代京都市におけるキリスト教会の誕生・消滅・移動	2015年11月	人文地理学会大会	
28	麻生 将	近現代の京都市におけるキリスト教会の立地とその変化	2016年3月	同志社大学人文科学研究所第15部門研究「持続的創造都市：京都のくらしと『まち』の総合研究」第15回研究会	
29	加藤政洋	戦後那覇における旅館業の集積とその特徴	2015年6月	第58回歴史地理学会大会、米沢女子短期大学	
30	薬師寺浩之	カンボジアにおける孤児院ボランティアツーリズムの現状と倫理的諸問題	2015年6月	グローバル化とアジアの観光研究会、立命館大学衣笠キャンパス	
31	薬師寺浩之	カンボジアの孤児院におけるボランティアツーリストの受け入れ動機に関する考察	2015年7月	観光学術学会第四回全国大会、阪南大学	
32	薬師寺浩之	「ダークツーリズム研究の新地平—ダークネスを射つ」シンポジウム・コメンテーター	2015年11月	立命館大学人文科学研究所重点プロジェクト「グローバル化とアジアの観光」主催ワークショップ、キャンパスプラザ京都	
33	薬師寺浩之	タイ国政府観光局が行う観光誘致キャンペーンにおける「タイらしさ」の表象と政治性	2015年11月	2015年度立命館地理学会大会、立命館大学衣笠キャンパス	
34	薬師寺浩之	カンボジアにおけるボランティアツーリズムが地元に及ぼす影響	2016年2月	奈良県立大学国際交流委員会主催観光学国際セミナー、奈良県立大学	
35	井澤友美	インドネシア・バリ州における世界遺産登録	2015年10月	グローバル化とアジアの観光研究会、立命館大学衣笠キャンパス	
36	古村 学	イリオモテヤマネコをめぐる人びとの生活から見る世界自然遺産	2015年10月	グローバル化とアジアの観光研究会、立命館大学衣笠キャンパス	
37	足立研幾	「グローバル・ガバナンス論再考—規範研究の視点から」共通論題「グローバル・ガバナンス論の再構築」	2015年4月18日	グローバル・ガバナンス学会 南山大学	
38	加藤政洋	第58回歴史地理学会大会	2015年6月	第58回歴史地理学会大会（於：米沢女子短期大学）	

4. 主催したシンポジウム・研究会等					
No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	「松田美緒トーク&ライブ クレオール・ニッポン うたの記憶を旅する」	衣笠キャンパス以学館1号ホール	2015年12月	90名	
2	「メルロ＝ポンティとレヴィナス愛、平和、正義」	衣笠キャンパス学而館研究会室	2015年10月	15名	公益財団法人日独文化研究所
3	「メルロ＝ポンティと言語の魅惑的機能」	衣笠キャンパス学而館研究会室	2015年11月	15名	
4	間文化現象学シンポジウム「制度化」	衣笠キャンパス	2016年3月	50名	
5	ダークツーリズム研究の新天地—ダークネスを射つ	キャンパスプラザ京都	2015年11月	40名	
6	ダークツーリズム研究の現在と今後の課題	立命館大学衣笠キャンパス	2015年10月	20名	和歌山大学観光学部 国際観光学研究センター
7	奈良県立大学国際交流委員会主催観光学国際セミナー “The Global – Local Nexus in Hospitality and Tourism”	奈良県立大学	2016年2月	20名	奈良県立大学国際交流委員会
8	第2回「都市の空間史」研究会	衣笠キャンパス	2015年6月	15名	
9	第3回「都市の空間史」研究会	衣笠キャンパス	2015年8月	14名	

5. その他研究活動（報道発表や講演会等）				
No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間
1	アナ・ホナッカー	不確実な可能性にもとづく生	間文化現象学講演会（共催・公益財団法人日独文化研究所）、衣笠キャンパス	2015年10月
2	ダリン・テネフ	翻訳の現象学に向けて	間文化現象学講演会、衣笠キャンパス	2015年12月
3	インガ・レーマー	カントから現象学的形而上学の問題へ——ラスロ・テンゲイを追悼して	間文化現象学講演会、衣笠キャンパス	2016年3月
4	マティアス・オーベルト	台湾における間文化的な哲学遂行	間文化現象学講演会、衣笠キャンパス	2016年3月
5	遠藤英樹	（講演）地域に根ざす観光のあり方	大山崎町教育委員会ふるさと案内人養成講座	2015年9月
6	遠藤英樹	（講演）遊歩者の想像力—探偵小説とツーリズムが重なり合う「都市の悪所」	立命館大阪プロムナードセミナー 大阪・京都文化講座（後期）「京都・大阪『悪所』の研究」	2015年11月

6. 受賞学術賞					
No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
該当無し					

7. 科学研究費助成事業						
No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	林 尚之	戦後政治史のなかの主権と人権の創発と定着に関する研究	研究活動 スタート支援	2014年4月	2015年3月	代表
2	中島茂樹	イノベーション政策下における国家・大学間関係に関する公法学的比較研究	科研費 基盤研究(C)	2016年4月	2019年3月	代表
3	林 尚之	近代日本立憲主義と戦後政治に関する総合的研究	科研費 基盤研究(C)	2016年4月	2019年3月	代表
4	加國尚志	「間文化性の理論的・実践的探求—間文化現象学の展開」	科研費 基盤研究(B)	2014年4月	2019年3月	代表
5	ウェルズ恵子	アメリカにおける都市移民の口承文化：1880-1930年代の南東欧移民を中心に	科研費 基盤研究(C)	2014年4月	2018年3月	代表
6	岡本雅史	臨床・教育場面におけるトラブル事例の実践分析～帰属バイアスの相互解消に向けて	科研費 挑戦的萌芽研究	2014年4月	2017年3月	代表

8	亀井大輔	遺稿調査にもとづくジャック・デリダの脱構築思想の生成史の解明	科研費 基盤研究(C)	2014年4月	2017年3月	代表
9	伊勢俊彦	私が入りこみ、行動する世界の構成と自己の外部への依存の哲学的研究	科研費 基盤研究(C)	2016年4月	2019年3月	代表
10	池田裕輔	オイゲン・フランクを中心とした現象学的世界概念の体系的・	科研費 若手研究(B)	2015年4月	2017年3月	代表
11	橋本和也	観光まちづくりと地域振興に寄与する人材育成のための観光学理論の構築	科研費 基盤研究(C)	2013年4月	2017年3月	代表
12	加藤政洋	戦後沖縄の都市形成期における離島出身者の就業構造	科研費 基盤研究(C)	2014年4月	2017年3月	代表
13	薬師寺浩之	日本人が参加する海外ボランティアツアーの文化に関する実証的研究	科研費 若手研究(B)	2014年4月	2017年3月	代表
14	神田孝治	観光に焦点をあてた歓待についての地理学的研究	科研費 挑戦的萌芽研究	2014年4月	2017年3月	代表
15	井澤友美	インドネシア・バリ州における民主化後のジレンマ:観光開発と文化保全	科研費 若手研究(B)	2015年4月	2019年3月	代表
16	大野哲也	ツーリズムによる災害復興に関する観光社会学的研究—居住者の生活の立場から	科研費 基盤研究(C)	2016年4月	2019年3月	代表
17	韓 準祐	身体障害者の観光の現状と阻害要因に関する実証的研究	科研費 若手研究(B)	2016年4月	2019年3月	代表
18	松下 洵	暴力に抗するラテンアメリカ社会:リージョナル・ガバナンス構築の視点から	科研費 基盤研究(C)	2012年4月	2016年3月	代表
19	文 京洙	韓国の地域社会における市民事業の展開とローカル・ガバナンスに関する研究	科研費 基盤研究(C)	2013年4月	2016年3月	代表
20	小澤 亘	デジタル図書によるトランスナショナルな外国人児童学習支援ネットワーク構築	科研費 基盤研究(C)	2016年4月	2019年3月	代表
21	玉置えみ	家庭と仕事の両立と女性の健康:国際移住による社会環境の変化に注目して	科研費 若手研究(B)	2015年4月	2018年3月	代表
22	足立研幾	グローバル規範の生成・変容・消滅メカニズムに関する研究	科研費 若手研究(B)	2013年4月	2017年3月	代表
23	山下範久	ウェストファリア史観の脱構築:メタディシプリナリ・アプローチ	科研費 基盤研究(B)	2012年4月	2016年3月	代表
24	川村仁子	非国家主体の自主規制による国際法規範の重層化に関する研究:科学・技術管理を事例に	科研費 若手研究(B)	2013年4月	2017年3月	代表

#### 8. 競争的資金等(科研費を除く)

No.	氏名	研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割
1	石井香世子	弱者救済における地域観光の有効性に関する日タイ比較研究	京都大学東南アジア研究所 東南アジア研究の国際共同研究拠点 平成25年度共同研究	2013年4月	2015年3月	代表者

#### 9. 知的財産権

No.	氏名	名称	出願人 区分	発明人 区分	出願番号	公開番号	登録(特許)番号	国
該当無し								